

【第3号様式】おきなわSDGs認証制度 主要評価項目（アクションプランに基づく活動計画書）

1. 団体情報

企業・団体名	株式会社青い海
--------	---------

2. 申請内容

（1）2030年のあるべき姿（ビジョン） ※記載必須

2030年のあるべき姿（ビジョン）	
<p>* SDGsの目標である2030年までに、「（2）今後2年間で特に注力する活動・取組」の実施によって、貴社/団体が目指す未来を記載ください。 （貴社/団体が目指したい社会、目標の達成に向けて貴社/団体が考える課題、それに対して貴社/団体ができる取組の方向性など）</p>	<p>2030年のあるべき姿の実現へ向けて取り組むゴール * SDGsの17のゴールから選択し、アイコンを入れてください。</p>
<p>シママース本舗青い海は「沖縄から"おいしい"の起点に」を合言葉に、誰もが「おいしいね」と笑いあえる、人々のすこやかな暮らしを、環境を、作りたいと願っています。</p> <p>掲げた目標のいずれも、沖縄での影響力はまだまだ足りないと考えています。沖縄を代表する企業となるべく継続的なこれらの活動を続けることで、お客様も、従業員も、自然も、地域社会も、豊かな未来をつくっていきけると信じています。</p>	

（2）今後2年間で特に注力する活動・取組 ※最低3個（経済・社会・環境）は記載必須

No.	今後特に注力する活動・取組		おきなわ SDGsアクションプランとの関係性			関連するステークホルダー	補足事項・留意点等	貴団体におけるKPI（進捗管理指標）		
	概要	分類 * 任意の箇所は、プルダウンから分類を選択ください。	優先課題	SDGs推進の目標	関連するSDGsターゲット	* 連携・協力するステークホルダーがいる場合に記入する。	* 補足事項等があれば記入する。	管理する指標	現状値 (2023年度)	目標値 (2025年度)
1	食用塩の安定供給	経済	必須	優先課題④ ④-3	沖縄県産農林水産物のブランド化による県外消費と地産地消の促進により農業・林業・水産物の産出額等の拡大を実現する。	9.5	食品・飲料メーカー、スーパー、CVS、飲食チェーン	出荷トン数	5,900t	6,080t
2	従業員の賃上げと、給与テーブルのベースアップの実行	社会	必須	優先課題④ ④-5	働く意欲のある人に雇用の機会が確保され、沖縄社会全体で完全かつ生産的な雇用を実現する。	8.5 8.6	弊社従業員	全体平均賃上げ率	1.40%	8%
3	工場全体のCO2排出量の削減	環境	必須	優先課題⑥ ⑥-2	2050年度カーボンニュートラルの実現に向け、本県の地域特性に合ったグリーンエネルギーの導入拡大や省エネルギー対策の推進、二酸化炭素吸収源対策等が進み、災害に強い島しょ型の脱炭素社会に向けた基盤形成を実現する。	13.3	工場リニューアルを依頼する提携企業（リニューアル設計：味の素EG、機械メーカー：木村化工機）	CO2排出量	5,900tCO2	5,150tCO2

上記の取組に加えて、今後特に注力する取組があれば、記載ください。（分類を「経済・社会・環境・ガバナンス・地域課題への貢献・国際課題への貢献」から自由に選択ください）

4	従業員が幸せになれる職場づくり	社会	任意	優先課題 ①	①-5	安全・安心で充実感を持って働くことができる労働環境を促進し、誰もが生き生きと活躍できる社会を実現する。	8.5 8.6	弊社従業員		従業員満足度の総合満足度スコア	56.4	67.2
5	自社所有観光施設「Gala青い海」での工芸市の定期開催	社会	任意	優先課題 ⑪	⑪-3	伝統文化・歴史・伝統行事を若い世代が継承し、世代や国を超えた発信を行い、多様な交流が広がっている社会を実現する。	11.4	県内工芸作家	KPIのスコアは上がっていませんが、継続することが容易ではなく、また現状適切な回数と思われるので「継続実施」を目標としています。	開催回数	年2回	年2回

（3）各活動・取組に関する詳細 ※記載必須

各活動・取組に関する詳細

*各取組内容を詳細に記載ください。なお、取組については現時点の達成度に限らず、将来的な展望や今後目指す展開についても必ず記入してください。

取組 1	取組の詳細	県内でのブランド戦略（露出の増大、県内企業とのコラボレーション）を進めるとともに、市場の認知拡大と県内各スーパー等での配下・シェアを増やす。同時に県外では業務用（食品工業用）を主軸にアプローチを行い、塩の出荷トンを増大させる。2024年に創業から50周年をむかえ、周年行事としての露出増大も計画している。
	取組において、現時点で実施／決定していること	中期経営計画の立案（2021年）、周年行事としてのプロモーション動画づくりやTVCM（これから）、県内企業とのコラボレーション商品の開発・発売（2023年・複数企業）
	取組において、今後予定していること	製造工程を平釜から立釜（真空蒸発缶）へと変更（2026年）し、生産効率をあげることで、出荷増にも対応可能な体制を整えることができる。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	設定理由や妥当性：製造工程変更後の10年出荷計画をもとに設定、生産体制が効率化・スピードがあがることで、対応が可能となる。 計測方法：年間の出荷重量で算出。
	取組を推進する体制	経営層・各部門・部署の部門長・課長級が出席する、本社戦略マネジメント会議を月次で開催し、PDCA管理を行う。 実際の実働部隊は、東京営業所、沖縄営業所の営業メンバーがアプローチを行う。企業コラボや戦略については、マーケティング企画課が担当。
取組 2	取組の詳細	2021年に策定した人事制度（目標管理制度）と賃金制度についての見直しを実施、全社的な賃上げと、昇給テーブルの各評価毎の昇給額テーブルの見直し（金額の引き上げ＝ベースアップ）も検討。全体のコスト増をみながら、2024年4月には制度改定を実施する計画で検討中。
	取組において、現時点で実施／決定していること	決定していることは、無し。（賃上げとベースアップを検討しているが、会社全体での総コストを踏まえて、実行可能かの判断が必要となる。） 直近8月に、見直し素案を提案し、幹部にて検討会を行った。
	取組において、今後予定していること	数か月後に、検討会の席上で出た意見をふまえた修正案を再度検討予定。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	設定理由や妥当性：1次素案をもとに数値設定（例年通常の賃上げは1.5%前後だが、今回の賃上げとベースアップを各等級のバランスを回りながら作成し、結果8-10%の金額上昇となった。）もともとの給与レンジが地域性もあり安いので、上昇幅は大きいと思われる。 計測方法：全体の賃上げ幅（従業員全体の総賃上額）で算出。その際入退社による賃上げ非対象者は全体の合計から除く。
	取組を推進する体制	経営層と各部門長で構成される部門長会議で検討。素案の提出や、決定後の実務に関しては、経営企画部にて実施する。

取組 3	取組の詳細	製造工程を平釜から立釜（真空蒸発缶）へと変更（2026年）し、エネルギーの効率が大幅に向上、結果として工場全体のCO2排出量を25%以上低減させる。
	取組において、現時点で実施／決定していること	金融機関からの融資が決定（プレスリリース済み）、リニューアル計画を監督する企業（味の素エンジニアリング）、機械メーカー（木村化工機）をコンペで選定。リニューアルのスケジュールまで決定。
	取組において、今後予定していること	2024年工事着工、2025年試運転開始、2026年4月本稼働を予定。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	設定理由や妥当性：機械メーカーからの試算をもとにエネルギー低減量およびCO2排出量を算定。生産量に変更になってもある程度達成可能な裕度で設定。 計測方法：工場全体の各種使用エネルギー（燃料）を算出、それを各燃料ごとに排出係数に換算して、CO2排出量を算出。計算に当たっては熊本県が公開している簡易計算シートを活用。
	取組を推進する体制	経営層・幹部で構成される工場リニューアルPJTを月次で実施、課題について検討と対応を行っている。 全社的な取り組みになるため、すべての部署が対応をおこなっていく。
取組 4	取組の詳細	企業のビジョンを共有し、職場環境を整え、従業員の満足度を高め、成長を支援できる職場づくりを行う。
	取組において、現時点で実施／決定していること	経営層との個人面談、上司部下との定期面談の頻度を上げ、会社や部門の方向性（目線）を従業員各人と揃えていく。 多様な働き方（短時間勤務、リモートワーク）の導入。
	取組において、今後予定していること	多様な働き方（フレックスタイム制）の導入、従業員への教育機会の創出（社内や社外での研修）。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	2021年より毎年実施している従業員満足度調査（日本生産性本部監修）の総合満足度のスコアを指標として利用する。 直近の調査では、満足度スコアが低下している。分析すると、ここ数年の改革疲れが従業員にあらわれていると予想、今後各施策を進めていくことで従業員のエンゲージメントを高め、スコアをあげていく。 KPIに設定した目標数値は、スコアが下がる前の総合点をまずは目指したいとして設定した。
	取組を推進する体制	経営企画部がリリース、各部門毎で無記名実施をする。最終、経営企画部にて集計して開示。
取組 5	取組の詳細	自らが運営する読谷村の観光施設「Gala青い海」で、大規模な伝統工芸の即売市を、年2回開催する。 春（4月）：Gala青い海春のやちむん市、秋（11月）：読谷やちむんと工芸市
	取組において、現時点で実施／決定していること	年2回は継続開催していくこと。
	取組において、今後予定していること	工芸作家との対話を通じて、今後の出店を促す。（年々、関係を強固なものにしていく。）
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	2021年までは年1回の開催だったものを、2022年より2回実施に。読谷村のみならず全島から作家を誘致することができている。今後も年2回の実施を継続していくこととする。
	取組を推進する体制	経営企画部を中心に企画、Gala青い海が主軸となって運営を行う。